

特別支援学級での学びを、児童生徒はどのように感じているのでしょうか？

【主な特別支援学級の対象となる障害の種類及び程度】

○知的障害

知的発達が遅延があり、他人との意思疎通に軽度の困難があり日常生活を営むので一部補助が必要で、社会生活への適応が困難である程度のものである。

○自閉症・情緒障害

- 一 自閉症又はそれに類するもので、他人との意思疎通及び対人関係の形成が困難である程度のものである。
- 二 主として心理的な要因による選択性かん黙等があるもので、社会生活への適応が困難である程度のものである。

特別支援学級の好きなところ～児童生徒の声から～

- ・ 安心感がある
- ・ 落ち着く
- ・ 相談しやすい
- ・ 交流のクラスより安心する
- ・ 自分を出しやすい



- ・ 友達がいる
- ・ みんなが優しく、接しやすい
- ・ 先生や友達と話しやすい
- ・ 友達と遊ぶのが楽しい

- ・ 友達が作りやすい
- ・ 先生がおもしろい
- ・ 助けてもらいやすい

教師の支援

- * 話をしっかり聞く
- * 気持ちをくみ取る
- * 教室環境を整える

- * 基本的なあいさつの指導
- * 自分の言動を振り返る機会を設ける

- ・ じっくり考えられる
- ・ 勉強が分かりやすい
- ・ 落ち着いて学習ができる
- ・ 分からない問題を教えてくれる
- ・ 勉強が少しずつできるようになってやる気が出てきた



- * 個に合わせた指導
- * 反復的な指導
- * 「できていること」に着目した指導
- * 興味・関心を生かした指導

- ・ 係の仕事ができる
- ・ 社会に慣れるための練習をしてくれる
- ・ 友達との関わり方を教えてくれる
- ・ 特別支援の行事があって楽しい



- * 役割を与えるだけでなく、「皆のために自分ができること」を考えられるように、帰属意識をもたせるような指導・支援
- * アサーショントレーニングやロールプレイングによるコミュニケーション力の育成



児童生徒の意見を掘り下げてみると…



「聞きたいことが聞きやすい。交流学級は、人がたくさんいるので緊張してしまい、なかなか質問ができないので…」

←質問する練習や、自分から声を掛ける練習をしています！



「自分一人で取り組む時間を十分に確保してもらえるので安心する。自分のペースで頑張っている。」

←待つことを大切にしています！また、全てを教えるのではなく、“分からないところ”を自分自身で気付くことができるような働き掛けをしたり、一人でも取り組めるような工夫を児童生徒と一緒に見付けていけるよう心掛けています。



「静かに取り組める。周りの音や声が気にならない。」

←目に入るもの、耳に入るもの…何がその児童生徒にとって刺激となるのかを見取り、環境整備を行っています！



「交流学級だと、一度にやらなければいけないことが多くて混乱してしまう…でも、特別支援学級は一つ一つできるので集中できる。」

←見通しを持てるに視覚的に示したり、「聞く時間」と「話す時間」と「書く時間」を分けたりしています！



「交流学級の他に、落ち着いて過ごせる教室があると、安心する。」

←交流学級での活動や行事の確認を前もって行うなど、交流学級でも安心して過ごせるような支援をしています！特別支援学級の教室が、交流学級でも頑張るための励ましの場となるような関わりを意識しています。